

みずほマーケット・トピック(2015 年 12 月 18 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3.本日のトピック」はお休みとさせていただきます。

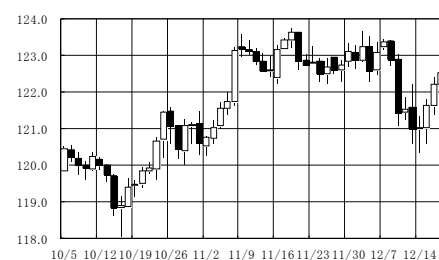
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は上昇する展開。週初 14 日に 120 円台後半でオープンしたドル/円は、日経平均株価が下げ幅を縮小する動きに 121 円台前半まで上昇する場面も見られたが、原油価格の下落やユーロ買いが強まると一時週安値となる 120.35 円まで下落した。その後はドル買い戻しが優勢となると、ドル/円は再び 121 円台に乗せる動きとなり、15 日にかけては米 11 月消費者物価指数(CPI)の市場予想を上回る結果などを受けて 121 円台後半まで上昇した。翌 16 日は、注目された FOMC において予想通り 0.25% の利上げが発表され、FRB メンバーの 2016 年政策金利見通し(中央値)が前回 9 月から据え置かれたことなども材料視され、ドル/円は 122 円台前半まで続伸となった。その後、イエレン FRB 議長が会見で労働市場に対して慎重な見方を示したことなどを受けて一旦は 121 円台前半まで反落したが、質疑応答が無難に終わったことなどから再びドル買い優勢地合いになると 17 日にかけてドル/円は 122 円台半ばまで上昇した。その後、原油価格が下落するも米利上げを受けたドル買い地合いが継続する中、ドル/円は一時週高値となる 122.88 円まで値を上げた。本日にかけてもドル/円は 122 円台半ばで底堅い推移が継続している。
- ・今週のユーロ相場は下落する展開。週初 14 日に 1.09 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、ドラギ ECB 総裁が現行の景気刺激措置がインフレ率を遅延なく押し上げると発言したことを受けて 1.10 台前半まで上昇した。翌 15 日には一時週高値となる 1.1060 まで上昇したが、リスク回避姿勢が強まる中で 1.09 台後半まで反落。その後はドル買い優勢地合いに、ユーロ/ドルは 1.09 台前半まで続落となった。16 日は、FOMC の結果を受けてドル買いが強まると、ユーロ/ドルは 1.08 台後半まで値を下げるも、イエレン FRB 議長の会見で慎重姿勢が示されると 1.10 台前半まで急伸する場面も見られた。しかし、基本的にドル買い優勢の地合いであることは変わらず、再び 1.08 台後半まで押し戻された。17 日は、独 12 月 Ifo 企業景況感指数の市場予想を下回る結果や欧米金融政策格差が意識されてユーロ売りが強まると、ドル買い地合いも継続する状況下、ユーロ/ドルは一時週安値となる 1.0802 まで下落した。本日にかけても、ユーロ/ドルは 1.08 台前半の安値圏で方向感に欠ける値動きとなっている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		12/11(Fri)	12/14(Mon)	12/15(Tue)	12/16(Wed)	12/17(Thu)	
ドル/円	東京9:00	121.70	120.88	121.12	121.67	122.49	
	High	122.23	121.35	121.79	122.43	122.88	
	Low	120.59	120.35	120.58	121.38	122.21	
	NY 17:00	121.00	121.05	121.65	122.22	122.55	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0946	1.0983	1.0990	1.0934	1.0873	
	High	1.1031	1.1048	1.1060	1.1013	1.0914	
	Low	1.0927	1.0945	1.0905	1.0888	1.0802	
	NY 17:00	1.0980	1.0995	1.0934	1.0913	1.0826	
ユーロ/円	東京9:00	133.23	132.80	133.09	133.04	133.16	
	High	133.78	133.23	133.53	133.78	133.25	
	Low	132.65	132.44	132.72	132.89	132.60	
	NY 17:00	132.99	133.06	133.00	133.37	132.69	
日経平均株価		19,230.48	18,883.42	18,565.90	19,049.91	19,353.56	
TOPIX		1,549.51	1,527.88	1,502.55	1,540.72	1,564.71	
NYダウ工業株30種平均		17,265.21	17,368.50	17,524.91	17,749.09	17,495.84	
NASDAQ		4,933.47	4,952.23	4,995.36	5,071.13	5,002.55	
日本10年債		0.32%	0.30%	0.30%	0.30%	0.30%	
米国10年債		2.13%	2.22%	2.27%	2.30%	2.22%	
原油価格(WTI)		35.62	36.27	37.35	35.52	34.95	
金(NY)		1,075.70	1,059.60	1,061.60	1,076.80	1,049.60	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、22日(火)に7～9月期GDP(3次速報)が発表される。2次速報は成長率が前期比年率+2.1%と、1次速報の同+1.5%から上方修正されたが、3次速報では同+1.9%に下方修正されると市場で予測されている。米9月のコア小売売上高(自動車・ガソリン・建材・外食を除くベース)は上方修正が確認できる一方、米9月貿易収支や米9月在庫投資が下方修正されたことなどが3次速報の低下に繋がった模様である。このほか、22日(火)に11月中古住宅販売件数が発表される。10月中古住宅販売は前月比▲3.4%(年率536万件)と減少した。先行指標となる10月中古住宅仮契約指数(2か月平均)が同▲0.7%と5か月連続で減少しており、11月中古住宅販売件数については同▲0.2%(年率534万件)と僅かながら減少するものの、ほとんど横ばいになると市場で予想されている。他方、23日(水)発表の11月新規住宅販売件数は前月比+2.0%(年率50.5万件)と3か月連続の増加が市場で予想されており、米国の住宅市場は概ね堅調さを維持していると考えられる。また、23日(水)には11月耐久財受注、11月PCEコアデフレーターが発表される。
- ・本邦では、24日(木)に日銀金融政策決定会合(11月18日～19日分)の議事要旨公表、黒田日銀総裁の講演が予定されている。また、25日(金)には11月失業率・有効求人倍率、11月全国消費者物価指数(CPI)及び12月東京都区部CPIが発表される。このうち11月CPIは前年比+0.3%と、10月同+0.3%から上昇幅の横ばい予想されている。先行指標となる東大日次物価指数や一橋大学週次物価指数では物価上昇率の拡大が続いている。また、11月東京都区部CPIもエネルギー価格が下落している一方で、食品などの価格上昇により物価上昇幅は拡大しており、11月全国CPIも10月から底堅く推移すると見られる。なお、11月CPIは日銀の物価目標である2%を大幅に下回る見込みであるが、日銀は生鮮食品とエネルギーを除くCPI(日銀版コアコアCPI、10月前年比+1.2%)を作成、公表しており、金融政策の決定に際して注視している模様である。そのため、全国CPIの停滞が金融政策に与える影響は限定的だろう。

	本 邦	海 外
12月18日(金)	-----	・ユーロ圏10月国際収支
21日(月)	・金融経済月報(12月)	-----
22日(火)	-----	・米7～9月期GDP(3次速報) ・米11月中古住宅販売
23日(水)	休 場(天皇誕生日)	・米11月耐久財受注 ・米11月新築住宅販売 ・米12月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・米11月個人所得・消費
24日(木)	・日銀金融政策決定会合議事要旨	-----
25日(金)	・11月労働力調査 ・11月家計調査 ・12月東京都区部・11月全国消費者物価 ・11月企業向けサービス価格 ・11月新設住宅着工 ・10月景気動向指数(確報)	休 場(クリスマス)

【当面の主要行事日程(2016年1月～)】

一般教書演説(1月12日)

ユーロ圏財務相会合、EU経済財務相理事会(ECOFIN)(1月14日、15日)

欧州中銀理事会(1月21日、3月10日、4月21日)

米FOMC(1月26～27日、3月15～16日、4月26～27日)

日銀金融政策決定会合(1月28～29日、3月14～15日、4月27～28日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2015年12月)

月	火	水	木	金	週末
	1 日本 法人企業統計(7～9月期) 日本 自動車販売台数(11月) 米国 建設支出(10月) 米国 ISM製造業景気指数(11月) ユーロ圏 失業率(10月)	2 日本 マネタリーベース(11月) 米国 ADP雇用統計(11月) 米国 労働生産性(確報、7～9月期) 米国 ページブック ユーロ圏 消費者物価(速報、11月)	3 米国 製造業新規受注(10月) 米国 ISM非製造業景気指数(11月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	4 米国 雇用統計(11月) 米国 貿易収支(10月) ドイツ 製造業受注(10月)	
7 日本 景気動向指数(速報、10月) 米国 消費者信用残高(10月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) ドイツ 鉱工業生産(10月)	8 日本 GDP(7～9月期、確報) 日本 国際収支(10月) 日本 貸出・預金動向(11月) 日本 景気ウォッチャー調査(11月) 日本 企業倒産件数(11月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ECOFIN) ユーロ圏 GDP(速報、7～9月期)	9 日本 機械受注(10月) 日本 マネーストック(11月) 米国 卸売売上高(10月) ドイツ 貿易収支(10月)	10 日本 法人企業景気予測調査(10～12月期) 日本 企業物価(11月) 米国 財政収支(11月)	11 米国 小売売上高(11月) 米国 生産者物価(11月) 米国 企業在庫(10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、12月)	
14 日本 短報(12月調査) 日本 鉱工業生産(確報、10月) 日本 第三次産業活動指数(10月) ユーロ圏 鉱工業生産(10月)	15 米国 FOMC(～16日) 米国 消費者物価(11月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、10月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(12月) ドイツ ZEW景況指数(12月)	16 米国 住宅着工(11月) 米国 鉱工業生産(11月) ユーロ圏 貿易収支(10月) ユーロ圏 消費者物価(確報、11月)	17 日本 日銀金融政策決定会合(～18日) 日本 貿易収支(11月) 日本 資金循環統計(7～9月期) 米国 経常収支(7～9月期) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(12月) 米国 景気先行指数(11月) ブリュッセル EU首脳会議(～18日) ドイツ IFO企業景況感指数(12月)	18 ユーロ圏 国際収支(10月)	20 ユーロ圏 スペイン総選挙
21 日本 金融経済月報(12月)	22 米国 GDP(3次速報、7～9月期) 米国 中古住宅販売(11月)	23 日本 天皇誕生日 米国 耐久財受注(11月) 米国 新築住宅販売(11月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、12月) 米国 個人所得・消費(11月)	24 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨(11月18～19日開催分)	25 日本 労働力調査(11月) 日本 家計調査(11月) 日本 東京都都区消費者物価(12月) 日本 全国消費者物価(11月) 日本 企業向けサービス価格(11月) 日本 景気動向指数(確報、10月) 日本 新設住宅着工(11月) 米国 クリスマス	
28 日本 鉱工業生産(速報、11月) 日本 商業販売統計(11月)	29 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(10月) 米国 消費者信頼感指数(12月)	30	31 日本 大晦日 米国 シカゴ購買部協会景気指数(12月)		

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2016年1月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 お正月	
4 米国 建設支出(11月) 米国 ISM製造業景気指数(12月)	5 日本 マネタリーベース(12月) 日本 自動車販売台数(11月) ユーロ圏 消費者物価(速報、12月)	6 米国 貿易収支(11月) 米国 製造業新規受注(11月) 米国 FOMC議事要旨(12月15～16日開催分) 米国 ISM非製造業新規受注(12月) 米国 ADP雇用統計(12月)	7 ユーロ圏 失業率(11月) ドイツ 製造業受注(11月)	8 日本 金融政策決定会合(主な意見) 日本 景気動向指数(速報、11月) 米国 雇用統計(12月) 米国 卸売売上高(11月) 米国 生産者物価(12月) 米国 消費者信用残高(11月) ドイツ 鉱工業生産(11月) ドイツ 貿易収支(11月)	
11 日本 成人の日	12 日本 国際収支(11月) 日本 貸出・預金動向(12月) 日本 景気ウォッチャー調査(12月) 米国 一般教書演説	13 日本 マネーストック(12月) 日本 企業倒産件数(12月) 日本 財政収支(12月) 米国 鉱工業生産(11月) ユーロ圏	14 日本 機械受注(11月) 日本 企業物価(12月) ユーロ圏 ユーロ圏財務相会合	15 米国 小売売上高(12月) 米国 鉱工業生産(12月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(1月) 米国 企業在庫(11月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、1月) 米国 生産者物価(12月) ユーロ圏 貿易収支(11月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ECOFIN)	
18 日本 鉱工業生産(確報、11月) 日本 第三次産業活動指数(11月)	19 米国 TICレポート(対内対外証券投資、11月) ユーロ圏 国際収支(11月) ドイツ ZEW景況指数(1月)	20 米国 住宅着工(12月) 米国 消費者物価(12月) スイス 世界経済フォーラム年次会合(～23日) (ダボス)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(1月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト) ユーロ圏 消費者物価(確報、12月)	22 米国 中古住宅販売(12月) 米国 景気先行指数(12月)	
25 日本 貿易収支(12月) 日本 景気動向指数(確報、11月) ドイツ IFO企業景況感指数(1月)	26 日本 企業向けサービス価格(12月) 米国 FOMC(～27日) 米国 消費者信頼感指数(1月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(11月)	27 米国 新築住宅販売(12月)	28 日本 日銀金融政策決定会合(～29日) 日本 商業販売統計(12月) 米国 FOMC(～29日) 米国 耐久財受注(12月)	29 日本 金融政策決定会合・展望(基本的見解) 日本 労働力調査(12月) 日本 家計調査(12月) 日本 全国消費者物価(12月) 日本 東京都都区消費者物価(1月) 日本 鉱工業生産(速報、12月) 日本 新設住宅着工(12月) 米国 雇用コスト(10～12月期) 米国 GDP(1次速報、10～12月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、1月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(1月) ユーロ圏 消費者物価(速報、1月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2015年12月17日	FOMCを終えて～ドル/円見通しに影響なし～
2015年12月16日	日米金利差から見る現状のドル/円相場
2015年12月14日	日銀短観12月調査～後がない想定為替レート～
2015年12月11日	週末版(ECBのバランスシート拡大について～「2016年6月」に向けての進捗状況～原油価格下落のG3通貨への含意)
2015年12月9日	原油価格下落のG3通貨への含意
2015年12月8日	本邦10月国際収支統計と円相場の需給について
2015年12月7日	ECBはどうしたら踏み込むのか？今後のユーロ相場は？
2015年12月4日	週末版(ECB理事会を終えて～「故意的な失望」は転ばぬ先の杖か～)
2015年12月3日	イエレン講演や限界に迫るドル買い相場
2015年12月2日	実質実効為替相場(REER)で見る、ドル相場・円相場
2015年12月1日	ECB理事会プレビューの補足～超日銀化現象～
2015年11月27日	週末版
2015年11月26日	追加緩和後のユーロ相場～また、「下落の時代」？～
2015年11月25日	ECB理事会プレビュー(12月3日開催分)～3つの緩和メニュー～
2015年11月24日	ECB理事会議事要旨～「未知の領域」への不安も～
2015年11月20日	週末版
2015年11月17日	本邦7～9月期GDPを受けて～最近のULC動向～
2015年11月16日	仏同時多発テロを受けて～政治統合か、瓦解か～
2015年11月13日	週末版(ドル調達コストの急騰について～「割に合わない」ムードが強まる対外証券投資～)
2015年11月12日	12月ECB緩和を阻むもの～戻ってしまったインフレ期待～
2015年11月11日	米輸入物価下落が示す「不況の輸入」
2015年11月10日	本邦9月国際収支統計と円相場の需給について
2015年11月9日	米10月雇用統計を受けて～問題は「何回できるか」～
2015年11月6日	週末版(ECBの「次の一手」を考える～預金ファシリティ金利のマイナス幅はどこまでいくのか～)
2015年11月4日	3度目の正直に挑む、ドル/円相場の年間値幅
2015年11月2日	日銀金融政策決定会合を終えて～幻滅リスク回避も・・・～
2015年10月30日	週末版
2015年10月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年9月分)
2015年10月28日	FOMC声明文のプレビュー～注目すべき3点～
2015年10月27日	振り出しに戻った投機筋の円売り～2つの理由～
2015年10月26日	ECB緩和予告は日銀を追い詰めたと言えるのか？
2015年10月23日	週末版(ECB理事会を終えて～止まりそうにない金融政策の通貨政策化～)
2015年10月21日	米為替政策報告書について～我慢の限界は近い？～
2015年10月20日	日銀金融政策決定会合プレビュー(10月30日開催分)
2015年10月19日	ECB理事会プレビュー(10月22日開催分)
2015年10月16日	週末版(ユーロ相場の乱高下を受けて～迫るHICPのマイナス常態化と追加緩和～)
2015年10月15日	米利上げを再検討すべき時期に
2015年10月14日	ドイツ経済に見られ始めた失速の兆候
2015年10月13日	正当性を増すブレイナードFRB理事のスタンス
2015年10月9日	週末版(ECB理事会議事要旨(9月2～3日開催分)～崩れるインフレ期待？～)
2015年10月8日	本邦8月国際収支統計と円相場の需給について
2015年10月7日	IMF秋季世界経済見通し～利上げ不安は高まるばかり～
2015年10月6日	「利上げの好機」を逸したか～待ちくたびる雇用回復～
2015年10月5日	米9月雇用統計～皮肉な円安シナリオの延命も？～
2015年10月2日	週末版(外貨準備構成通貨の内訳(15年6月末時点)～中国報告開始の影響を考える～)
2015年10月1日	日銀短観9月調査～追加緩和の行方は？～
2015年9月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年8月分)
2015年9月28日	物価測度に照らしたドル/円相場の現状と展望
2015年9月25日	週末版(名目GDP600兆円への道～新「3本の矢」が目指すところ～)
2015年9月24日	欧州難民危機は統合深化の試金石に
2015年9月18日	週末版(FOMCを終えて(9月16～17日開催分)～糊代論への未練がましい執着～)
2015年9月17日	日銀4～6月期資金循環統計について
2015年9月16日	判断を迫られる通貨・金融政策～株価が実質賃金か～
2015年9月15日	投機筋の円ショート縮小をどう読むか？～その②～
2015年9月14日	ポスト債務危機の様相を呈してきた欧州難民危機
2015年9月11日	週末版(ドル/円相場の水準感～上値と下値の目途の考え方～)
2015年9月10日	ユーロ圏経済の現状と展望及びユーロ相場について
2015年9月8日	本邦7月国際収支統計と円相場の需給について
2015年9月7日	アンカラG20を終えて～分があるのぼちらの主張か～
2015年9月4日	週末版(ECB理事会を終えて～FOMCに先手を打ったECB～)
2015年9月3日	ECB理事会プレビュー～APP延長示唆か？～
2015年9月2日	国際金融のトリレンマから読む中国の外貨準備減少
2015年8月28日	週末版
2015年8月27日	世界同時株安で台頭する「リスク回避のユーロ買い」②
2015年8月26日	混乱を受けたドル/円相場の見直し改定について【暫定】
2015年8月25日	円相場の観点で見つめ直す日経平均株価の水準感
2015年8月24日	世界同時株安で台頭する「リスク回避のユーロ買い」
2015年8月21日	週末版(FOMC議事要旨(7月28～29日開催分)を受けて～「断固たる覚悟」は見えず～)
2015年8月19日	本邦7月貿易統計を受けて
2015年8月17日	日米欧4～6月期GDPを受けて
2015年8月14日	週末版(ECB理事会議事要旨(7月15～16日開催分)について～no reason for complacency～)
2015年8月13日	人民元切り下げとそれに付随する論点～その②～
2015年8月12日	人民元切り下げとそれに付随する論点
2015年8月11日	2015年上半年における円相場の基礎的需給環境
2015年8月10日	2016年日銀金融政策決定会合日程を受けて
2015年8月7日	週末版
2015年7月31日	週末版
2015年7月30日	FOMCを終えて～吹けば飛ぶような利上げ期待～
2015年7月29日	内閣支持率低下とドル/円相場
2015年7月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年6月分)
2015年7月27日	第三次金融支援でギリシャは幸せになれるのか
2015年7月24日	週末版(NZドルの現状や展望について～購買力平価(PPP)や実質実効為替相場(REER)からの評価～)
2015年7月23日	ユーロキャリー取引の妥当性を考える
2015年7月17日	週末版(ECB理事会を終えて～見直されるLLR機能～)
2015年7月16日	日銀金融政策決定会合を受けて
2015年7月15日	GPIF運用状況(15年3月末)から試算する円売り余力
2015年7月14日	ギリシャ第三次金融支援合意について
2015年7月13日	ユーロ圏、72時間以内の緊縮可決を要求
2015年7月10日	週末版(本当に本当の最後の会合～不安な「ギリシャ後の展開」～)
2015年7月9日	不運が続く円安シナリオ
2015年7月6日	ギリシャ国民投票を受けて～勝負の2週間～
2015年7月3日	週末版(拡大資産購入プログラム(APP)の現状と展望について～ギリシャ情勢を受けて問われる運営方針～)